

平成29（2017）年度

大阪中学校軟式野球泉北地区秋季大会実施要項

- 【1】期日 1回戦…8月26日(土) 2回戦…9月 3日(日)
3回戦…9月 9日(土) 準々決勝…9月16日(土)
準決勝、決勝…9月18日(月・祝) ※雨天時は翌休業日に順延
- 【2】試合会場 白鷺公園野球場(9/9,18), 助松公園野球場(9/16),
光明池球技場(9/9), 各中学校グラウンド(8/26,9/3, 雨天予備日)
- 【3】参加資格 平成29年度、1・2年生に在学する生徒で、教職員により引率されたチーム。
※部活動派遣指導員(府市町によって認可された者)は、コーチとして登録できる。
- 【4】抽選会 ○日時 8月1日(火) 10時00分～
○場所 堺市立福泉南中学校 図書室
- 【5】大会規定 ①試合方法は、トーナメント方式による。
②試合規定は、平成29年度公認野球規則に準じ、大阪中体連軟式野球部大会委員会で定めたものによる。
③決勝戦を除き、3回終了後10点差、5回終了後7点差のある時は、コールドゲームとする。
④7回終了同点の場合は、7回終了時の打順継続でタイブレークを1回行い、それでも同点の場合は再度タイブレーク(打順継続1回)を行う。なおも同点の場合は抽選を行う。
決勝戦は、勝敗が決定するまでタイブレークを継続する。

《抽選の手順》

- 1) 試合終了後、最終イニングに出場していた選手が残り、ポジション順(投手、捕手…)に並ぶ。
- 2) 先攻チームより抽選くじを先頭から順にひく。
- 3) 最後の選手が抽選くじをひいた後、監督が本部にて、結果を確認する。
- 4) 最後に、登録選手全員が再度整列し、主審が結果を告げた後、あいさつを行う。

※球場を使用する場合は、使用時間確保のため、一度登録選手全員整列し、試合を終了させ、本部にて抽選を行う。

- ⑤大会使用球は、大阪中体連公認球(健康ボールB号)とする。大会使用球については、各校が1試合につき2球を用意すること。
- ⑥選手の背番号は18番までとし、監督・コーチも同一ユニフォームを着用すること。ベンチには、登録選手、部長・監督・コーチの入場を許可する。
- ⑦タイムは1試合につき、守備側、攻撃側それぞれ3回までとする。ただし、タイブレークは2イニングにつき1回とする。(選手が2人以上集まればタイムとみなす。時間は30秒以内とする。)
- ⑧選手の交代は、監督が直接審判に伝える。
- ⑨ベンチは抽選番号の若い方を一塁側とする。

- ⑩その他、大阪中学校軟式優勝野球大会の大会規則および申し合わせ事項に準じて大会を行う。(別紙参照)

【6】健康管理及び用具

- ①健康管理については、各中学校で、責任を持って十分留意すること。特に、生徒引率については顧問が十分注意を払うこと。
- ②大会中に生じた選手の事故については、応急処置の他、その責は負わない。
- ③攻撃時には、打者・走者・次打者・ランナーコーチは、危険防止のため、ヘルメット（マーク入り）を着用すること。また、ボールボーイ等も安全のため、ヘルメットを着用することが望ましい。
- ④捕手は、危険防止のため、レガース・ヘルメット・プロテクター・スロートガード、ファウルカップを着用すること。投球練習時（ブルペン等）も同様とする。控え捕手もできるかぎり同様とする。
- ⑤手袋使用については、高校野球対応（白及び黒）のものに限る。
- ⑥装飾品（ネックレス、リストバンド、ミサンガ等）は禁止する。
- ⑦使用できるバットは、木製またはJ S B Bのマークが付いたものとする。

【7】その他

- ①試合開始予定時刻30分前にはグラウンドに到着すること。
- ②試合前のシートノックは行わない。(準決勝を除く)
- ③試合終了後のグラウンド整備は、会場校と相談のうえ、協力して行うこと。
- ④義務審判および負け審判の制度を実施する。(準々決勝まで)
 - ・義務審判については、1日2試合の場合は、第1試合と第2試合で相互に、1日3試合の場合は、第1試合の審判を第3試合の両校で、第2試合の審判を第1試合の両校で、第3試合の審判を第2試合の両校で、1日4試合の場合は、第1試合と第2試合で相互に、第3試合と第4試合で相互に行う。
 - ・負け審判については、自校が敗戦した学校の次の試合の審判を行うことにする。
 - ・準決勝、および決勝については、本部審判で行う。
- ⑤審判員は、試合開始予定時刻30分前には必ず集合すること。義務審判および負け審判を怠った場合は該当校の顧問に対してペナルティを課す。(内容はその都度、役員会で検討する。)
- ⑥選手、指導者ともに、マナーを守ること。判定への不服、危険なプレーに対しては、退場の措置も辞さない。また、試合後にペナルティを課すこともある。(内容はその都度、役員会で検討する。)
- ⑦今大会の上位4校に大阪府秋季総合体育大会への出場権を与える。
(府練習大会は9月30日(土)より三島地区にて開催)
- ⑧大会結果および予定、変更は、泉北地区中体連軟式野球部ホームページにも記載するので、各校で確認すること。
(http://blog.livedoor.jp/senboku_jhbc/)
- ⑨泉州地域に「暴風警報」「大雨警報」「洪水警報」のいずれかが発令された場合は、試合を中止し、順延とする。
- ⑩部員数が9人に満たない場合、複数校で合同チームを編成することができる。(ただし、合わせて18人を越えてはならない。)

大阪中学校軟式優勝野球大会特別規定

- ① チームは試合開始時間の1時間前(本大会については30分前)には会場に到着し、本部に連絡、受付をする。(本大会は会場担当校)。なお、試合開始予定時間(試合が遅れている場合は、試合開始時間)になっても試合のできる状態でないと本部及び当該審判が判断した場合は棄権とみなす。(人数、用具の必要最小限の不足、顧問の不在など)
- ② 5回戦ベスト32までの試合において(本大会については準々決勝まで)は、義務審判制を採用するので、試合予定1時間前(本大会については30分前)には到着し、試合の準備にあたる。ただし、自校の試合中の場合は、この限りではない。義務審判を果たさなかった場合は、当該校を没収試合とする。
- ③ 試合前のメンバー表の交換時に、キャプテンに対しグラウンドルールの説明、諸注意を行い、試合時間の短縮を図るので、キャプテンはこのことをよく確認しチーム内に伝達しておくこと。
- ④ ベンチは抽選番号の小さいチームを1塁側とする。
- ⑤ グランド内でのバットを使った打撃練習(バントを含む)は禁止する。
- ⑥ リストバンド、バットリング、鉄棒の使用は禁止する。
- ⑦ 選手が使用する手袋は、黒、または白一色(高校野球対応)に限る。また、医療目的でリストサポーターを使用する場合は、必ず試合前に本部の許可を得ること。色については、高校野球対応の者に限る。
- ⑧ 投手の投げ手の指先のテーピングは色を問わず禁止とする。その他の箇所については審判員の判断に従うこと。
- ⑨ ハイカットストッキングは禁止する。(ふくらはぎが完全に隠れる程度を目安とする。)また、アンダーソックスが見えるストッキングを履くこと。
- ⑩ 捕手のヘルメット、レガース、プロテクター、マスク(スロートガードは必ずつける。ただし、あごのフレームが長い一体型はスロートガードと見なす。)、打者・次打者および走者・ランナーコーチャーのヘルメット着用は義務づける。よって、チームは試合に先駆けて保守の防具2セット、7個以上のヘルメットを準備する(両耳付き)。また、安全面からも、グラウンド内に入ることが許可されているボールキーパーも着用を義務づける。(本大会については出来る限り着用する)捕手のファウルカップの着用も義務づける。(近畿大会・全国大会では着用が義務づけられている。)
- ⑪ ベンチ内で使用できるメガホンは1個とし、使用できるのは監督のみとする。また、ベンチに持ち込むことができるマスコットバットは1本とする。
- ⑫ 突発事故による臨時代走(コーティシーランナー)を審判員の判断で認める。(投手・捕手をのぞく前位の打者とする)
- ⑬ 次に示す野球規則は本大会では採用しない。
5.10d(投手が1イニングに投手以外の守備に2度以上つくこと。)
5.10l(2)(イニングに投手のアドバイスのためにタイムが2度以上取られた場合、自動的に投手の交代になる。)
- ⑭ ただし、監督はアドバイスをするためにファウルラインを越えてダイヤモンド内に入らないこと。
監督・部長は試合中必ずベンチに入り、選手ならびに自校応援団のすべての行動に対し責任を負うものとする。なお、監督・コーチは自校のユニフォーム(背番号はなし)類一式、部長は野球帽と白を基調としたワイシャツまたはポロシャツ・スラックス(女性はスカート可)を着用すること。また、学校長がベンチ入りする際には、必ず会場校本部へ申し出るものとする。その際の服装については部長に準じる。(野球帽に関してはその限りではない)
- ⑮ 試合中における規則適用上の疑義については、当該選手またはキャプテンのみ受け付ける。
- ⑯ 選手交代は、監督が直接、審判員に告げる。
- ⑰ 学校会場によるグラウンド特別ルールを設けてある場合は、その指示に従うこと。
- ⑱ 特別延長戦(タイブレーク)は、継続打順で、前回の最終打者を1塁走者とし、2塁、3塁走者は順次前の打者として無死満塁より行い、得点の多いチームを勝ちとする。
- ⑲ 選手の登録変更については2次抽選会の際のみ認める。登録変更の際は、登録用紙に変更を記入の上、校長印を押印のこと。(本大会においては適用しない)
- ⑳ 使用できるバットは一本の木材で作った木製バットの他、竹片、木片などの接合バットであること。木製については公認制度を適用しない。金属、ハイコン(複合)バットはJ S B Bのマークが付いた物に限る。
- ㉑ 準決勝については、後攻より7分以内でシートノックを行う。(状況によって短縮または省略することもある)
- ㉒ 野球規則 5.03(b)(3)(c)に関しては、本大会において会場によって扱いが異なる。球場ルールで行える試合会場においては規則改正後の扱いとし、学校会場においては規則改正前の扱いとする。

大会に関する申し合わせ事項

(1) 用具・服装に関して

- ① 背番号はマジックテープやスナップその他で四隅だけをとりめることはせず、点線のように四辺全部を縫い付ける。※については、首回りからの長さをチームで統一することが望ましい。ユニフォームの真ん中から下部につけないようにし、背番号が腰のあたりにならないようにする。
- ② ユニフォームのボタンはすべてとりめるよう指導する。
- ③ ユニフォームのロングパンツは認めない。(ひざと地面の中間点より上まで裾をあげる。)
- ④ ユニフォームの胸には校名を入れること。(マークなど図案化したものも可とする。ただし、野球用のボールをかたどったり、連想させるような模様はつけてはならない。)
- ⑤ レガースバンドやキャッチャーマスクが損傷しているままプレーしているチームが多いので、大会前に修理点検をする。
- ⑥ 極端なグリップのテープのはがれや凹み、ひび割れ、先端部のキャップが損傷しているバットは、使用をやめさせる。
- ⑦ 内部スポンジの損傷やひび割れなどのあるヘルメットは試合前の点検等で取り除かれることがあるので、注意すること。



- ⑧ アンダーシャツは必ず着用するよう指導する。
- ⑨ 流行色の強い新製品などで、使用の善し悪しのわからないものについては、追ってその規則を定めるが、禁止されても良いものとして各校で前もって指導する。
- ⑩ ロージンバックは本部としては用意しないので、必要があれば各校で準備すること
- ⑪ ユニフォームのポケットからタオル類がはみ出たり、ポケットにお金を入れたりしている選手をよく見かけるので注意すること。

(2) 試合の進行に関して

- ① 待機場所や飲食の注意を守り、会場の迷惑にならないよう注意する。
- ② 攻守交代は定位置まで全力疾走させ、徹底できない場合は監督・部長に注意を与える。
- ③ ファウルボールは飛んだベンチ側のチームが責任をもってボールキーパーに返却する。
- ④ 無駄な時間がかかるような複雑なサインは使用しないこと。(監督選手共に)
- ⑤ お互いに相手を誹謗中傷するような野次は、当該チームの部長・監督が責任をもってやめさせること。(個人・チームならびに保護者を問わない。特に保護者については、責任教師が対応する。)
- ⑥ 試合進行を早めるためにも、監督が選手をベンチに呼び寄せて指導する事は慎む。(補欠選手を伝令にいかせる。)
- ⑦ 試合終了後は、速やかに荷物をまとめ、忘れ物やゴミがないか確認してグラウンドに一礼をし、次のチームにベンチを明け渡す。次試合までのインターバル時間は20分以内を原則とする。(本大会においては、球場使用の際は、試合終了後、両チームの最終出場選手で、グラウンド整備を行うこと)
- ⑧ ラフプレーや中学生らしくない態度は厳に慎むこと。(足を上げたり、体当たりするようなスライディング、捕手のブロック、ヒットパイピッチ後の挑発的な態度、審判のジャッジに対する不平不満など) 場合によっては退場の措置も辞さない。

《攻撃側》

- ① 攻撃に入るとき、先頭打者、次打者及びベースコーチはミーティングに参加せず、速やかに所定の位置につく。
- ② バット引きやヘルメット回収、グラブ渡しなどベンチの選手の役割をしっかり把握、指導する。
- ③ 打者は無用に打席を外さない。次打者は投手が投球に関する動作に入ったら、低い姿勢で待機すること。
- ④ 初回の攻撃に入る際は、先頭打者と次打者以外の選手はベンチ前で素振りを行わない。
- ⑤ 守備側の補欠選手がインターバルの際にファウルライン近くまで出て待機するチームがあるが、安全面からもファウルエリアの半分より前に出ないよう心がける。

《守備側》

- ① 規則 5.07 を励行する。(投手は捕手からの送球を受け取ったら、速やかに投手板についてサインを見ること。)
- ② ボール回しは一回りとし、定位置で行う。その最中に、送球ミスがあった場合は、速やかに投手に返させる。また、走者がアウトになった時のボール回しは行わない。尚、試合が遅延している場合はボール回しをなくすこともある。
- ③ できれば用具をつけた補助キャッチャーを用意しておき、インターバルを1分以内に終わらせる。
- ④ 捕手は投球練習の時からマスクをかぶらせるよう指導する。
- ⑤ インターバルの守備練習の際は、内野1球、外野2球以内にする。
- ⑥ 控えキャッチャーが投球練習を受ける際には、すべての防具を装着する。出場している野手が投球練習を受ける際にも、キャッチャーヘルメットとマスクは必ず装着して受ける。(キャッチャーミットでなくても構わない。)

(3) 審判に関して

- ① 義務審判については、1日4試合の場合：第1試合は第2試合の両校で、第2試合は第1試合の両校で、以下第3・第4試合も同様に交互に行う。1日3試合の場合：第1試合は第3試合の両校で、第2試合は第1試合の両校で、第3試合は第2試合の両校で行う。
- ② 義務審判は、本部審判に従って試合の準備を手伝う。(メンバー表の確認、グラウンドルール説明、両チームの用具点検等)ただし、次に試合を控えている審判員に関しては配慮する。
- ③ 試合前に必ず審判員同士で打合せを行い、「クルー」としての連帯感をもつ。
 - a. 名前と塁審位置の確認…特に試合の「ベンチ側」と審判位置とは一致しなくてもよい。
 - b. グラウンドルールの確認…学校会場では特に念入りに確認しておくこと。
 - c. テリトリ (打球に対する責任範囲)の確認…「ハーフスウィング」「触塁」「カバーリング」
 - d. 簡単なサインの確認…インフィールドフライのケースやタイムプレーのケースの確認。
 - e. 問題解決方法の確認…タイムやバークの際の同調、規則適用の話合いなど。
- ④ 義務審判の服装：大阪中体連軟式野球部の審判服、グレーのスラックス (ジャージは禁止)、審判帽、スパイク (黒色のものでも金具・ポイントなどのストップ機能のついたもの。ライン入り、黒色の運動靴等は不可。)を着用し、インジケータ・ハケを携行する。(必携)
- ⑤ 塁審が2塁の内野内に位置するとき、腰を下ろして「しゃがむ」ことは絶対にしないこと。
- ⑥ 攻守交代の間も守備側の選手を早く定位置につかせたり、投手板や塁を掃いたりして次のイニングに備える。またベンチ前に不必要な用具が置き去りにになっていないか、ランナーコーチが所定の位置についているかも合せて確認すること。
- ⑦ 選手交代は「～君」をつけるよう心がける。
- ⑧ バークや妨害行為 (打撃や守備、走塁等)を宣言した場合は必ず該当する選手にその理由を説明する。
- ⑨ タイブレイクの時には、必ず走者や打者の背番号や打順の確認を本部と行った上で再開すること。
- ⑩ 終了後は必ずその試合に関しての反省や疑義を検討し、問題点は本部もしくは、後日審判委員長に報告や質問をする。

その他

- ① 部長・監督で生活指導・安全指導に特に留意する。
- ② 飲料水については各校で用意し、自校で出したゴミは必ず持ち帰り処分すること。
- ③ 選手の往復路についても学校制服・ユニフォームを着用し、中学生らしい態度を失わない。